2018年 春号　男女が共に生きる情報紙 VOL.116

●教えて!ワーク・ライフ・バランス
●聞いてみました!パパと子どもの過ごし方
●私も、あなたも、考えよう「セクシュアルハラスメント」
●娘夫婦の「おかあさん」介護から学んだこと
●編集後記
●インフォメーション

かがやけ地球

キュとするまち。藤沢

藤沢市

教えて！ワーク・ライフ・バランス

ここ数年、テレビや新聞で耳にするワーク・ライフ・バランス（以下WLB）について、藤沢市役所産業労働課の成田さんにうかがいました。

Q WLBとは何ですか？

A 一言でいえば、「仕事と生活の調和」になります。「仕事」「家庭」「地域」の3つのバランスを上手に取ることで充実した生き方、働き方をしていくということでしょうか。多様な生き方や働き方を互いに理解し、尊重し合う社会の実現を目指すものです。仕事に責任とやりがいを持って取り組みながら、家庭や地域での生活や自己啓発などのプライベートな部分も充実させるという考え方は、企業にとっても優秀な人材の獲得や定着につながるのでは、と注目されています。

Q 藤沢市として取り組み始めた時期や背景は？

A WLBの推進については、労働団体、企業、経済団体、NPO、大学、行政等がそれぞれの立場で取組を行っていますが、経済情勢や生活環境がWLBに与える影響はとても大きく、各団体等が連携・協働して取り組むことが必要であると考え、2011年7月に「ふじさわワーク・ライフ・バランス推進会議」を設置しました。会議は年に2回程度開催し、労働団体、経済団体、企業、学識者、市民により、それぞれの立場を踏まえながらも、より広い視点での課題の共有を図り、WLBの推進について議論を行っています。

Q この会議で聞く声は？

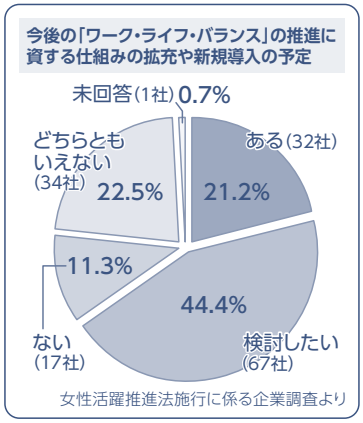
A 中小企業の方からは、「WLBに取り組むのは難しい」という現状を聞く一方、「優秀な人材を確保するために、WLBは必要だ」という声がありました。ある企業では、就業規則の見直しから始め、残業を減らしていこう、従業員のスキルアップを図ろうということで取り組んでいるそうです。「従業員の意識を変えるのはもちろん、まずは組織のトップの意識を変えないとね」と企業上層部の方自らが話していました。

Q 会議以外にWLBを推進するために産業労働課として行っていることは？

A 課としては、平成27年度に新社会人向けに「働く基礎知識GUIDE」というパンフレットを作成し、市内にある大学、看護学校にも配布しました。昨今マスメディアで聞くブラック企業の問題も意識していますが、「この働き方おかしいのでは？」と主体的に判断できるヒントになればと思い作成しました。また、平成28年度には企業向けにWLB推進のポイントやどのような取組があるのかをまとめた「進めよう！ワーク・ライフ・バランス」というパンフレットを作成し、市内にある企業等に配布し、啓発に努めています。

Q 課として、WLBに取り組み始めてから変化や改善を実感することはありますか？

A 約2年前（2016年春）に市内の従業員が50人を超える企業を対象に女性登用状況やWLBのアンケートを実施しました。「今後のWLB推進に必要な仕組みの拡充や新規導入の予定はあるか？」の設問には、約65%の企業が「予定あり」「検討したい」など前向きな回答でした（下図参照）。この春に2回目のアンケートを実施予定ですので、この2年での各企業の推進状況、意識の変化がわかるかと思います。WLBは、アンケートの結果や数値だけでわかるものではないので、推進されているか判断するのは難しい面も正直あります。



インタビューを終えて

「自分自身もWLBができているかと問われてもうまくできていなくて…」と話されていた成田さん。私も同様です。取材中、多様な立場にお互いが理解し合うという「意識」が大切であるということを何度か話されていました。

（佐野　記）

聞いてみました！

パパと子どもの過ごし方

市内のパパたちが子どもと接する様子をうかがおうと、湘南台子育て支援センターへ足を運びました。

湘南台子育て支援センター、「ぴょんぴょん広場」の愛称で親しまれています

湘南台は交通の便もよく、さまざまなお店が揃っているため、利用者は近隣に住んでいる方とは限りません。ママやパパの通院やヘアカットの合間、子どもと安全に楽しく待っていられる場所として、みなさん上手に活用しているようです。

今回お見かけした夫婦は二組。一組目は二人のお子さんと上手に接しているパパで、平日も入浴の時間には間に合うように帰っているそう。「でも、妻からしたら、全然足りないと思います」と謙虚に笑っているのが印象的でした。

二組目のご夫婦は、平日はなかなか早く帰れないけれど、できるだけママの話を聞くようにしているというパパ。離乳食を食べてくれないのが今の悩みというママと二人で笑い合う様子に、日ごろの姿が垣間見えました。

次いで、母子で利用していた二人のママにも、パパの様子について話を聞きました。一人目は「お風呂は絶対に自分が入れると言って、私が入れると怒るんです」と笑うママ。パパの帰りを待つと入浴が21時頃になり、眠る時間も少し遅くなってしまうのですが、それがご家庭のリズムになっているようです。

最後は第二子の出産を控えたママ。平日は帰宅が遅いというパパも、休日にはママの声かけがあれば子どもを世話してくれるので助かるけれど、できれば「もう少し積極的になってほしい」とおっしゃっていました。

今回のインタビューでは、自分ができることを考え、積極的に実践するパパがいる一方、不慣れな子育てについつい消極的になってしまうパパの様子もうかがえました。

また、日々の過ごし方を教科書通りにするのではなく、パパの意見を反映してその家庭に合ったものに変えていくと、パパももっと子育てに参加しやすくなるのだなと気づきました。

当然のことながら、各家庭のライフスタイルはさまざま、そして子どもの個性もさまざま。一番大切なのは、新しい家族が増えたとき、どういうふうに過ごしたいかを、夫婦で確認し合うことなのかもしれません。

時にはパパに子どもをお願いしたいけれど、父子二人きりで過ごすのは不安……というのは、まだ子育てに慣れないパパもママも共通の不安かもしれません。そういうとき、支援センターでは、必要に応じて保育士さんが手を差し伸べてくれます。父子が踏み出す第一歩として、こうした施設を活用してみると、自信を持って子どもと接することができるようになっていけるのではないでしょうか。

（廣松　記）

パパも安心して入っていける雰囲気

私も、あなたも、考えよう

「セクシュアルハラスメント」

昨年来、米国ハリウッドの大物映画プロデューサーによるセクハラ疑惑に端を発し、性的被害を受けた経験のある女性そして男性が団結してセクハラや性的暴行に立ち向かおうとする動きが大きなムーブメントとなりました。「私も」と声をあげようと呼びかける女優A(アリッサ)・ミラノさんのツイッターには「#Me too」というリプライが殺到し、セクハラ問題で糾弾された英国国防相が辞任するなど、瞬く間に大きなうねりとなって世界を席巻。日本でも、被害を実名で訴える書籍の発表や、著名人の行為や体験に対するさまざまな反応など、多くの議論を呼んだことは記憶に新しいところです。

今回注目したいことは、男性やLGBTの人々も沈黙を破ったということです。当然ながら被害者は女性ばかりではないという認識を、世界に知らしめることとなりました。日本では、1986年に女性労働者の福祉のための法律としてスタートした男女雇用機会均等法が、現在は男女双方に対する性差別を禁止する法律となっています。法改正に伴い「セクハラ防止に配慮する義務」が「セクハラの防止措置をとる義務」に強化され、厚生労働省が定めている「事業主が職場における性的な言動に起因する問題に関して雇用管理上講ずべき措置についての指針」いわゆる「セクハラ指針」にも、「職場におけるセクシュアルハラスメントには、同性に対するものも含まれるものである。また、被害を受けた者の性的指向又は性自認にかかわらず、当該者に対する職場におけるセクシュアルハラスメントも、本指針の対象となるものである」と明記されるようになりました。

「『セクハラは他人事ではなく自分の問題』として考えることです。なぜならセクハラは『人権問題』であり、ごく身近な『職場の問題』だからです。」とは、(公財)人権教育啓発推進センター発行の企業における人権研修シリーズ「セクシュアル・ハラスメント」にある一文。誰もが自分の問題として考えることが、セクハラを防止する必要条件であり十分条件でもあるのです。職場以外のどこかでも。

(鈴木　記)

娘夫婦の「おかあさん」介護から学んだこと

京都で結婚した娘夫婦が、おかあさんと同居しながら成長する姿や介護の頑張りの中で、私にとっても父親として学んだ面があった。

第1節 娘の結婚とおかあさんの病気療養

世間の多くと同じく娘の義母と互いに「おかあさん・おとうさん」の呼び名に。

以後、私の京都での行事ごとに泊めてもらい懇談機会も多く、ある老舗店を経営するおかあさんは、地域の習慣や家庭でのやりくり等々、娘に早く教え込まねば‥との思いが“おかあさん自身へのプレッシャー”となっていたが、娘との間で時にドキッとするようなやりとりや心遣いなど繰り返すうちに家族として一つの形が育まれ、後の「介護の心」にもつながったのではと感じられた。

娘とおかあさんが互いに孤独な関係とならず夫婦として「親子両世代」の関係となったことが、孫たちも含め良い体験になり、私もそうしたことを学ぶ機会となった。

その後、おかあさんも高齢と病の影響で、急ぎ後進育成へ痛む膝を押しての出勤、娘もおかあさんの送迎と、時には店の手伝いも。

ベッドから起こし、路面から全高約5mの自宅階段の上り下りを支えたり、トイレ介助など、猛烈な力仕事で娘の奥歯付近が左右とも腫れ、こんなになるものか‥と驚き。

入院を繰り返すようになったが、病（ガン、他へも転移）も既にやれる治療はなく、娘夫婦も賛同し自宅療養（在宅介護）に決定。

第2節 在宅介護

栄養剤点滴とお風呂を看護師・介護士さんに依頼、その他全てを親族の方々の助けを借りながら、日常は娘夫婦と、孫3名（小5, 小4, 幼稚園年長組）も炊飯・卵焼き等・洗濯・入歯洗いや、おばあちゃんの食欲を高めるためベッド横で食事するなど。

当初おむつを嫌がっていたが漏らすことが増えおむつでもこぼれるなど、おかあさん自身が誰よりつらかっただろうが、妻の対応に何でもよくこなす娘婿も“ようやるナア”と目を潤ませての冗句で感謝。

夜中の対応のため、勤務先のご協力も得て夫婦が交代でベッドの横で寝るようになり、それが暫く続いた。

私も“京都での行事を兼ねて‥”として夫婦で訪れ、小声ではあるが満85歳のおかあさんと会話、“わたし、幸せ”と言ったあと眠るのを見て藤沢へ帰宅。

翌週葬儀となってしまったが、泣いたり笑ったりしながら親族ほぼ全員と懇談、葬儀後におじさん（おかあさんの弟）の音頭で場所を変えての宴を全員で楽しみ、今後を誓い合った。

介護は、他に私など知らない大変な事例が多く、父親として特別な体験ともいえないですが、介護される人と家族の実際の姿に接し、身に染みて「介護」を感じた次第です。

（前田　記）

編集後記

- ひとつ建物がなくなると、見知らぬ場所に来た気分。藤沢のまちも変わりゆくとき。（鈴木）
- 「おまえ百まで わしゃ九十九まで」といわれますが、ほぼ“互助介護”を連想中です‥。（前田）
- 大庭城址公園、引地川親水公園、新林公園…今年はどこでお花見しよう。（佐野）
- 今回初参加です。広報誌の執筆編集は初めてですが、周囲への感謝を忘れず頑張ります。（廣松）

インフォメーション

募集！

「共に生きるフォーラム ふじさわ2018」実行委員を募集します

男女共同参画について認識を深めるイベントの企画・運営に参加しませんか。

対 象

実行委員会〈平日に複数回開催予定〉に出席できる方

申込み方法

4月23日（月）までに、下記電話またはEメールに住所・氏名（フリガナ）・電話番号を書いてお申し込みください。

申込み・問合せ

藤沢市 企画政策部 人権男女共同平和課
【電話】0466-25-1111（内線2131）
【FAX】0466-24-5928
【Eメール】fj-jinkendanjyo@city.fujisawa.lg.jp

募集！

情報紙「かがやけ地球」に広告を掲載しませんか？

藤沢市では、市民の皆さまに広く男女共同参画について知っていただくため、「かがやけ地球」を発行しています。この度、紙面へ掲載する広告を募集します。

本紙は、年4回（6月末、9月末、1月末、3月末）各5,000部を発行し、市内公共施設、介護事業所や金融機関等へ広く配布するほか、市で実施する人権・男女共同参画に関連するイベントで参加者の方にお渡ししています。会社のPRなどにぜひご活用ください。

広告掲載の概要

広告サイズ	1枠 4.5cm×9cm
配　置	紙面調整の上、決めていきます

詳細は、人権男女共同平和課男女共同参画担当までお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

4/1㊐ 湘南版公開！
「湘南で子供と遊ぶ！」
お出かけ情報満載のWEBサイト
asobii —shonan—
累計利用者250万人！
あそびい https://asobii.net/shonan
produced by shonan-yomiuri

かがやけ地球は、市民の編集員さんの企画・運営によって、年4回発行しています。

編集スタッフ　鈴木 悠子・山口 千鶴子
前田 英孝・佐野 美穂子・廣松 仁子

ご意見・ご感想・今後設って欲しいテーマなどをお待ちしております！

FAX 0466-24-5928
E-mail fj-jinkendanjyo@city.fujisawa.lg.jp

藤沢の有隣堂《ご案内》http://www.yurindo.co.jp/
藤沢店 0466-26-1411
JR・小田急江ノ島線「藤沢」駅南口直結「フジサワ名店ビル」2・3・4・5階
テラスモール湘南店 0466-38-2121
JR「辻堂」駅北口直結「テラスモール湘南」1階
藤沢本町トレアージュ白旗店 0466-50-7550
小田急江ノ島線「藤沢本町」駅から徒歩5分
●神奈川・東京・千葉に52店舗 ●学校・公共施設・法人への商品納入
●オフィス用品の通販 ●オフィス設計・家具 ●出版事業
●図書館・地区センターの運営 ●音楽教室 ●カルチャーセンター
有隣堂

藤沢駅直結！
地域密着"元気"デパート
フジサワ名店ビル
0120-111-391
営業時間 10:00〜21:00
〒251-0055 藤沢市南藤沢 2-1-1
https://www.fujisawa-meiten.com
当ビルではショッピングの他に貸ホールを提供しております。教室の開催や展示会・講演・販売などに、どうぞお気軽にご利用くださいませ。

発行／2018年3月　藤沢市企画政策部人権男女共同平和課　〒251-8601 藤沢市朝日町1番地の1　TEL.0466-25-1111（内線2131）
URL：http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/jinkendanjyo/　E-mail：fj-jinkendanjyo@city.fujisawa.lg.jp
再生紙を使用しています